

企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

継続展示中!

1F

- 「旅の図書館 オススメの一冊」
- 「旅心を誘う、旅の本のレジェンド30選」
- 「ふるさとパンフレット大賞」受賞作品 (地域活性化センター協力)

B1F

- 「公益財団法人日本交通公社がお勧めする研究書 & 実務書100選」
- 当財団専門委員が選んだ「わたしの一冊」

貴重書ギャラリー (1F)

紀元2600年と1930年代の観光政策 (2020年4月～9月)

明治政府が定めた紀元(皇紀)2600年にあたる1940(昭和15)年、日本では、記念事業として3つの国際イベント(夏季オリンピック東京大会、冬季オリンピック札幌大会、日本万国博覧会)の開催が計画されていました。社会情勢が悪化する中で残念ながら実現にいたらなかったこれら国際イベントとともに、日本が世界にアピールすべく国際観光政策を強く推進した時代を紹介しています。

エントランスギャラリー (1F)

株式会社型DMOによる事業開発 (2020年7月～9月)

観光文化244号で特集した「株式会社DMO」を、その事業開発パターンに着目して取り上げ、パターン別に日本各地から3つの事例をご紹介します。



前回企画「スマートリゾート」も館内で継続展示中。デジタル技術を活用し、地域の生産性や持続性を高め、高い国際競争力を持った地域を形成する、「スマートリゾート」に取り組む海外の事例をご紹介します。

Information

観光資源情報WEBサイト



『美しき日本 全国観光資源台帳』を公開しました!

2020年7月1日に、観光資源情報WEBサイト「美しき日本 全国観光資源台帳」を公開しました。当財団が長らく取り組んでいる観光資源研究をベースに、各資源の概要だけでなく観光研究の視点も織り交ぜて、日本の多種多様で魅力あふれる観光資源を紹介するWEBサイトです。

当財団では、1968年より、全国の観光資源の客観的・総合的評価に関する研究(「観光資源研究」)に取り組んでいます。観光資源の魅力の基準を整理するとともに、その基準に沿って全国の観光資源を選定し、「全国観光資源台帳」として取りまとめ、適宜更新してきました。

このたび、この「全国観光資源台帳」をベースとしたWEBサイト(美しき日本全国観光資源台帳)を新たに構築し、日本の魅力的な観光資源を発信していくこととしました。まずは第1次公開として、群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県・福岡県・佐賀県・大分県・沖縄県の8県分のデータを公開いたします。

このWEBサイトは、各観光資源の概要に加え、観光研究の視点も織り交ぜることで、各観光資源の魅力の根拠

や鑑賞のポイントを解説していることが特徴です。

日本は魅力的な観光資源にあふれています。多くの方々に旅を通して、観光資源の豊かさ、多様さ、奥深さを感じていただきたいと願っています。そのための一助に、このWEBサイトをお役立ていただければ幸いです。



WEBサイトトップページ



「たびれば」

概要

名称 美しき日本 全国観光資源台帳

URL <https://tabi.jtb.or.jp/>

目的

わが国の魅力的な観光資源の情報を消費者に広く提供することで、国内旅行の促進、ひいては観光文化の振興と豊かな社会の実現に寄与する。

公開

2020年7月1日【第1次公開】
1次公開では下記の8県を公開
群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県・福岡県・佐賀県・大分県・沖縄県 ※今後、順次公開予定

構成

個別の観光資源情報、「たびれば」(タイムリーな情報や専門家視点でのより深い観光情報)、他

たびとしよ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 12

2020年7月号



「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

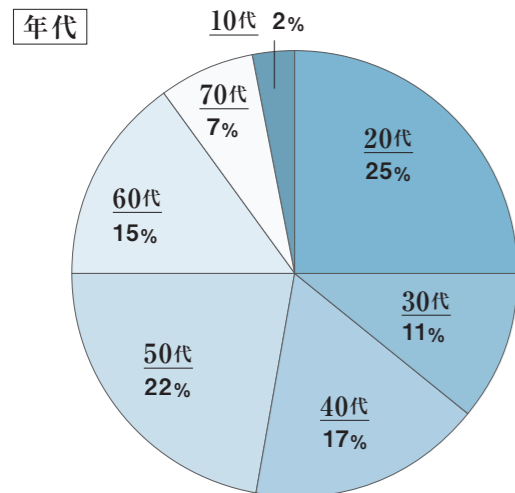
2019年度の運営概況のご紹介

来館者の動向

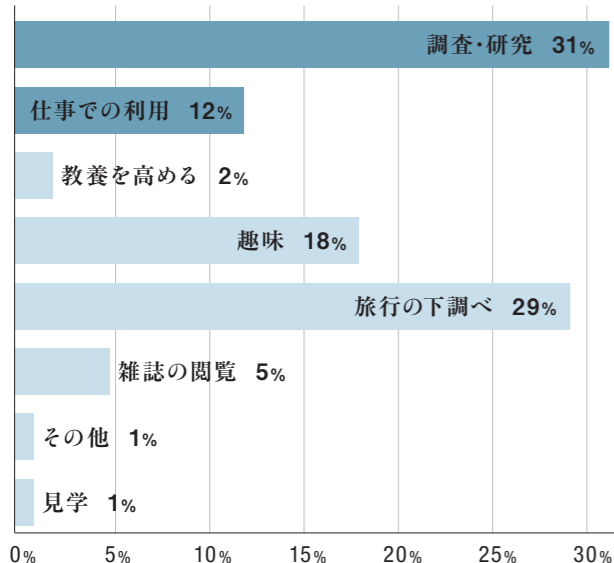
当館への来館者は年間約3,000人を数えます。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月下旬から3月は臨時休館となった2019年度の来館者数は2,926人でした。

このうち、初めての方とリピーター(再来館)はほぼ半半ずつ。性別では男性が57%、女性が43%でした。年代別では、20代が最も多く、次いで50代、40代、60代の順で、幅広い年齢層の方にご利用いただきました。特に20代が多いのは、観光を学ぶ学生の方の卒業論文などでの利用が多いことがあげられます。

来館目的では、「調査・研究」と「旅行の下調べ」がともに3割前後を占め、当館の大きな特徴となっています。



来館目的



図書閲覧ランキング

当館をご利用の方は、どのような資料をよくご覧になっているのでしょうか。2019年度の1年間によく閲覧された資料について集計してみました。最新のガイドブックや国内外の旅行先の資料などライブラリープラザ(1F)の資料は記録を取っていないため、ここでは、メインライブラリー(B1F)の特徴的な資料についてランキング上位のものを紹介します。

観光研究書・実務書(T分類)

順位	書名(資料名)	著者/出版社	出版年
1	昭和旅行誌 雑誌「旅」を読む	日本交通公社	2010
1	ようこそ日本へ 1920-30年代のツーリズムとデザイン	東京国立近代美術館	2016
3	旅と観光の年表	旅の文化研究所編/河出書房新社	2011
3	近代日本の旅行案内書図録	荒山正彦/創元社	2018
5	日本ホテル略史(1946年版復刻)	運輸省/日本ホテル協会	1980
5	聖地巡礼(中公文庫2306)	岡本亮輔/中央公論新社	2015
5	聖地巡礼ツーリズム	岡本亮輔/中央公論新社	2012

財団コレクション(F分類) ※ガイドブック、古書等除く

順位	書名(資料名)	著者/出版社	出版年
1	日本交通公社50年史	(財)日本交通公社	1962
2	観光の実態と志向 -国民の観光に関する動向調査結果	日本観光振興協会	-
3	旅行年報	(公財)日本交通公社	-
3	日本交通公社七十年史	(株)日本交通公社	1982
3	ルックJTBパンフレット(海外旅行)	JTBワールドパッケージ	-

古書(F分類)

*は雑誌(複数年を含む)

順位	書名(資料名)	著者/出版社	出版年
1	Travel In Japan*	Board of Tourist Industry	-
2	国際観光*	国際観光協会・観光振興協会編	-
3	Sunrise (Travel In Japan)*	Toa Kotu Kosya	-
3	回顧録	山中忠雄編/日本交通公社	1982
3	観光*	国際観光協会・日本観光連盟	-



「昭和旅行誌 雑誌「旅」を読む」



「日本交通公社 50年史」より



「Travel In Japan 1936年春号」

旅の図書館オススメの一冊!

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します!



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10

1 富士山世界遺産登録へのみちのり 明日の保全管理を考える
田畑貞壽 監修・編著 清雲俊元 監修著 ぶんしん出版 2020年2月 A5判 334頁
世界文化遺産に登録されるまでには30年余りを要し、特異なプロセスを経た富士山の登録作業に関わった担当者らによる登録への実践活動の記録。

2 オーバーツーリズム 観光に消費されないまちのつくり方
高坂晶子 著 学芸出版社 2020年3月 四六判 272頁
国内外の事例を通して、オーバーツーリズムの様々な背景や実態と旅行者の満足度を高め、地域が観光の利益を実感できるまちのつくり方を探る。

3 ゲストハウスプレス 日本の旅のあたらしいかたちをつくる人たち
ゲストハウスプレス編集部編 西村祐子 著 ワンダラーズ出版 2020年1月 A5判 128頁
フリーペーパーとWebで発信してきた「ゲストハウスプレス」の書籍化。厳選した23宿のそれぞれから、その地で暮らす人やまちの魅力が伝わってくる。

4 スポーツツーリズム入門
ジェームス・ハイナム トム・ヒンチ 著 伊藤央二 山口志郎 訳 晃洋書房 2020年6月 菊判 226頁
空間・場所・環境・時間といった枠組みからスポーツと観光を架橋するスポーツツーリズム研究の基礎を体系的に学ぶことができる基本書。

5 日本のお弁当文化 知恵と美意識の小宇宙
権代美重子 著 法政大学出版局 2020年4月 四六判 252頁
いまや世界の共通語となった「BENTO」。「日本のもてなしと食文化」をテーマに研究する著者が見出した庶民のエネルギー源、美意識の表現をお弁当に探る。

6 司馬遼太郎 旅する感性
桑島秀樹 著 世界思想社 2020年3月 四六判 240頁
歴史風景の再現紀行「街道をゆく」-眼前の風景のなかに過去の歴史や人間を見抜き、それを現在に蘇らせる司馬遼太郎の「感性」を読み解く。

7 DMOのプレイス・ブランディング 観光デザイン・ブランディングのつくり方
宮崎裕二・岩田賢 編著 長崎秀俊・光畑彰二・山本さとみ・武田光弘・辻野啓一・佐野直哉・加藤英彦・西松卓哉 著 学芸出版社 2020年6月 A5判 220頁
運輸総合研究所内に設置した研究会成果が結実。感染症の流行、オーバーツーリズム等のリスクに直面する今こそ、観光地・観光業に関わる人に読んでほしい。

8 進化する里山資本主義
篠谷浩介 監修 Japan Times Satoyama推進コンソーシアム編 ジャパンタイムズ出版 2020年5月 四六判 336頁
「マネー資本主義」のアンチテーゼとして提唱された「里山資本主義」。実践者たちへの取材をもとに「成功要因」を探り、これからの地域活性化への道を照らす1冊。

9 ホテル御三家 帝国ホテル、オークラ、ニューオータニ
山川清弘 著 幻冬舎 2020年5月 新書 293頁
戦国時代を迎えた日本のホテル市場にあって、今なお高い評価を維持している「御三家」。「おもてなし」「老舗の安心感」では片付けられない御三家の歴史と意外な因縁が興味深い。

10 IT活用 新しい文化体験で地域活性 先端技術による文化財活用ハンドブック
文化庁地域創生本部 文化庁 2020年4月 A5判 63頁
文化庁が作成した先端技術による文化財の活用方法を28の事例からわかりやすく紹介。「文化財保護のための資金調達ハンドブック」も合わせて活用したい。